

KiKiの広場

2020年11月 1日

cafe NO.121
KiKi



今月号から11年目に突入の「KiKiの広場」です。いいニュースから話題にしたいところですが、カフェと共に育ってきたアーチ横のフェイジョアの木に、今年はなんと実が1つも生ってないことに気付き、大ショック!! 台風の際の塩害のせいなのか、気候的に実がなるには難しい何かがあったのか……。数が少ない年はありましたが、1つも無いというのは初めてです。(>_<) また、毎年ヒストリア前の舗道に大きな落ち葉を敷き詰めていたプラタナスの木の枝が、台風の前にバツサリ切られて、まさしく骨のようになっていました。台風が来る度に大きな枝が折れたり、落ち葉もすごかったのですが仕方ないかもしれませんが、その姿を見るにつけ寂しい気持ちになっていました。でも最近、その骨のようになっていた切られた枝の先をよく見ると、新しい葉が……。普通だったらこの時期の葉は紅葉していますが、若々しい黄緑色のきれいな若葉です。樹木の生命力の強さにホッと、希望を感じました。同じように、フェイジョアの木も、きっとまた来年、命が繋がっていくと信じたいと思います。



11月の予定

休館日	10日(火)
定休日	毎土・日・月曜日



「今月のケーキ」…「ナッツ&ベリーショコラ」 350円

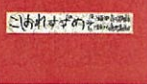
チョコレートとバニラの2層ムースケーキ。低糖質でありながら、ナッツやベリーの食感が充足感を高めます。糖質が気になる方も安心!

今月のお気に入り…「日本の昔ばなし 第2弾！」

～「ねずみのよめい」「こしおれすずめ」「炭焼長者」「こぶといいさん」「にぎりめしごころ」「へそもち」 などなど ～



「ねずみのよめい」の再話は、昔ばなし研究の第一人者小澤俊夫さん、絵は金井田英津子さん。みんなが知っているお話ですが、迫力のある絵とシンプルな文章に新鮮さを感じ、改めて昔ばなしの良さがわかる絵本です。「こしおれすずめ」は、瀬田貞二さんと瀬川康夫さん作です。鎌倉時代の「宇治拾遺物語」の中にあるお話だそうです。「おはなしのろうそく16」の中に、稲田和子さんの再話でもあるので、読み比べてみるのも面白いです。そして何ととっても、瀬川さんの絵に惹き込まれます。



今月の本棚…「きのこの絵本」

～「きのこの絵本」「毒きのこ 世にもかわいい危険な生きもの」「ときめくきのこ図鑑」「さるのこしかけ」 などなど ～

きのこの絵本



きのこの生育場所という、暗くてじめじめしたところというイメージでしたが、きのこに魅せられた画家として有名な小林路子さんは、「人間にとっていい環境が、きのこにとってもいい環境」と言われています。その小林さんの「きのこの絵本」は、写真のような美しさです。どれだけきのこを愛しているかが伝わってきます。ところどころに生き物たちが小さく描かれていて、その姿にも癒されます。題名に惹かれて手にとってみた、「毒きのこ～」は、毒きのこだけを取り上げた写真集です。きのこの名前にサブタイト



ルがついていて、それがまた楽しいです。「雲母のきらめきーキララタケ」「真っ赤な足が魅惑的ーアシベニグチ」「『今昔物語集』に登場する光る毒きのこーツキヨタケ」など～。必見です!



ほっとフレイク

ヒストリアのアイドル!! その4…アイドルKちゃんが2歳になりました。「おやつ食べる人?」と聞かれたら、「はい!」と元気良く手を挙げるKちゃん。言葉も増えてきて、その仕草の1つ1つが可愛くて可愛くて。気がついたら、若い学生スタッフパパに、ちゃっかり抱っこされているそうです。



自己の芽生えが出る時期です。仕事をしながら、Kちゃんの自己主張に優しくしっかり向き合っているお母さんのKさんに、職場の仲間として、同じ親としてエールを送りたいと思います。(^ O ^) /